

平成29年9月25日、政策秘書課職員との話しです。

## 本当の市民参加のまちづくりが始まった

今、長久手市では、今後のまちづくりに大きく関わる「計画」と「条例」づくりを進めています。一つは、今後のまちづくりの指針となる総合計画（愛称：ながくて未来図）。もう一つは、まちづくりを進めていく上でのルールを定めた（仮称）「自治基本条例」です。

8月下旬から9月上旬にかけて、この「計画」と「条例」を広く、市民のみなさんに知ってもらい、話し合い、考える会合を小学校区ごとに開催したところ、6小学校区で約230人に参加をいただきました。私も、すべての小学校区に顔を出させていただきました。

会合では、自分が暮らす小学校区の好きなおとこ、課題に感じるところを個人で書き出した後、同じ課題を持つ人同士がグループになり、グループごとに、例えば、「防犯パトロールの数を日本一にするには？」といった「課題解決のために、つい行動したくなる問い掛け」を考えました。

終了後のアンケートでは、「みんなが同じようなことで悩んでいることが分かり、少し安心した」「多くの問題が、人と人がつながることで解決できると感じた」「こうした場に出てみるのもいいなと感じた」等のほか、「意見をどう計画に反映していくのか見えない」といった感想もいただきました。

6回とも、経営企画課の職員が進行役を務めました。回を重ねるにつれ、進行が上手になりました。市民として参加した経営企画課以外の職員の中には、同じ市職員が進行役を務める姿に刺激を受けた者も多数いたようです。



参加者のみなさんと記念撮影

本市の最初の総合計画は、昭和49年に作られましたが、そのとき既に「住民参加」と書かれていました。以降、現在の第5次総合計画まで、いずれにも「住民参加のまちづくり」と書かれていますが、未だに「住民参加のまちづくり」は実現できていないと思っています。

今回、次期総合計画のために集まった市民のみなさんがイキイキとした笑顔で、ワクワクしながら話し合っている姿、

職員が互いに刺激を受けて取り組む姿を見て、私は、今、まさに「本当の市民参加のまちづくりが始まった」と感じています。

一方で、市主催の取組への参加をためらう方にお聞きすると、「市のことを全く知らないから意見を言えない。だから、参加しない」と言われる方がいらっしゃいますが、見学だけでも大丈夫です。「今日は、見学だけ」と受付でおっしゃってください。まずは、一人でも多くの方々に、市民のみなさんがイキイキと話し合いをする姿を見ていただきたいと思います。

#### 次期総合計画（愛称：ながくて未来図）のテーマ別検討会

第2回 11/3（金・祝）9:30～12:00 福祉の家2階集会室

第3回 11/26（日）9:30～12:00 福祉の家2階集会室

※第1回は、10/21（土）に開催しました。

～市長の話を聞いて～

「市民が知らない計画は計画じゃない。単なる作文だ」

先日、名古屋市内で行われた講演会での前地方創生大臣 石破茂氏の発言です。どうしたら、一人でも多くの方に行政計画を知ってもらい、計画づくりに参加してもらえるのかは、全国の課題でもあります。

私が先日、市内に暮らす中学時代の友人に「総合計画の会合に参加しない？」と声を掛けたところ、「人見知りだから、行けないけど、広報を読んで、総合計画を作っているのは知っているよ」と言われました。友人が「総合計画」という言葉を知ってくれていることが、とにかくうれしかったです。

次期総合計画の策定では、参加者の中に、ご近所にチラシを配ってくれたり、SNSで周知したりしてくださるPR隊の市民の方が多数いらっしゃいます。こうして互いに誘い合うことが、「単なる作文」で終わらないことにつながると考えています。